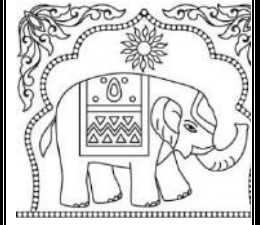


まいとりい मैत्री

第 31 号 —2022. 3. 29—

東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会発行機関誌



< मैत्री > :maitrī (マイトリー) とは、慈しみ、友情、思いやりを意味する古代インドのサンスクリット語です。

仏教では慈（いつくしみ）・悲（あわれみ）・喜（よろこび）・捨（とらわれない心）という四つの広大な利他の心（四無量心）の一つです。

ごあいさつ

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

次々に変異するコロナウイルスの前に私たちの生活は脅かされたままですが、そのなかで不十分ではありますがオンラインによる活動が定着しつつあることは一筋の光明です。

現在、東洋大学仏教会・仏教青年会の中心になっている勉強会は、サンスクリット語文献とチベット語文献による二つが行われ、大学院生を中心とする参加者は熱心に取り組み、授業の補完以上の目覚ましい成果をあげています。ただ、仏教会の運営の実務を担っていた専任教員に多くの困難が生じ、勉強会以外の活動はほぼできなくなり、会員への連絡も滞っている状況です。組織の運営ができない状況も起こりつつあり、危機感を募らせていますが、世代交代に取り組みつつ、なんとか次年度の活動を見据えて取り組んでゆくつもりです。皆さんにはご迷惑をおかけしますが、引き続きご協力をお願い申し上げます。

東洋大学仏教会会長 文学部教授 渡辺章悟

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの蔓延が落ち着かないまま早くも2年が過ぎようとしています。最近では、国際情勢も不安が募るばかりになってきました。

2021年度は東洋大学仏教青年会の活動を続ける上でも様々な困難に直面しましたが、なんとか語学勉強会を続けることができました。さらに、近年疎遠になりつつあった仏教青年会連合との連携も再確認いたしました。また、東洋大学仏教会・仏教青年会のホームページをリニューアルすることが叶いました。新ホームページでは「まいとりい」のバックナンバーをご覧いただけるようになっております。

これまで活動を継続して来られたのは、ひとえに諸先生方、会員の方々のご理解とご協力によるところです。ご助力を賜った方々のお名前を一つ一つ挙げることは叶いませんが、感謝申し上げます。ありがとうございました。

これまでに受けた応援を無駄にすることなく、活動を継続・発展させて参りたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

東洋大学仏教青年会会長 東洋大学大学院博士前期課程 森原康暉

—— パーリ聖典の註釈文献はおもしろい ——

松村淳子（東洋大学大学院非常勤講師）

註釈文献と聞くだけで何だか小難しそうという印象を持ってしまう。しかし、パーリ聖典の註釈は読み物としても面白い物語の宝庫である。とりわけ、『ジャータカ註』と『ダンマパダ註』はその双璧と言えよう。この二つは、他の註釈（アッタカター）と比較して、ほとんどが物語で、韻文で聖典とされる部分に本来の註釈＝解説が付されている。それで多くの学者が、この二作がブッダゴーサの著述であるという伝統説に懐疑的であった。ブッダゴーサは、自分がアッタカターを叙述したものには、それぞれ独自の名前を与えている。例えば、『ディーガニカーヤ・アッタカター』は『スマンガラヴィラーシニー』というように。しかしこの二作は、フォン・ヒンニューバー教授が強調するように、『アッタヴァンナナー』という呼称がつけられている。私が思うに、この二作は他の註釈文献と異なり、内容が「語り *vaṇṇanā* < *vaṇṇeti* “to narrate”」だからだ。そして、私はこの二作がブッダゴーサの著作で間違いないと考えている。

前置きはこのくらいにして、私は昨年十月に、『ダンマパダ註』の PTS 版全四巻の和訳を『真理のこぼれ物語集』という題名で、国書刊行会から上梓することができた。私が心がけたことは、仏教の専門的な知識がない人にも読みやすい日本語にすること、しかし原文の文言には忠実に訳すということである。

という訳で、面白い話は数え切れないが、その中から一つ、第四章五話「物惜しみコーシヤ長者の物語」を要約しつつ紹介しよう。

《ラージャガハから近いサッカラという町に、コーシヤというドケチな長者がいた。彼は八億の財産がありながら、修行者や婆羅門に布施をすることもなく、また自分や妻子のためにも財産を減らさないようにドケチ生活をしていた。

ある日の明け方、師（ブッダ）は大悲の入定から出て全世界を観察され、このコーシヤ長者とその妻に寄流果への機根があるのを見いだされた。その日、コーシヤ長者は王宮からの帰りに、一人の男が餠を中に詰めた揚げ饅頭を食べているのを見て、自分も饅頭を食いたいという欲求を起こした。しかし、自分が饅頭を食いたいと言ったら、大勢の人々が一緒に食べたがるだろう。そうすればたくさんの油や米や椰子蜜が失われるだろう」と考えて、誰にも話さずに渴望を抑えていた。しかし渴望は募るばかりで、黄疸のようになり、枕を抱えて寝込んでしまった。すると彼の妻が「どうなさったのですか」と優しく話しかけた。それでも話すまいとしたが、とうとう自分の望みを打ち明けた。妻は「そんなことなら、サッカラの町中の人々に足りるくらいの饅頭を作りましょう」と。「彼らは自分で働いて食べればいいではないか」「同じ通りに住んでいる人々に足りる分を作りましょう。」「私はおまえがとても浪費家だと知っているよ」などなどと、とうとう自分ひとりだけが食べる分を作ることにさせた。他の人々に饅頭の匂いで期待させないように、七階建ての楼閣の最上階に、調理の材料と鍋と竈を妻に持たせて上がり、すべての扉を閉めて饅頭を調理させはじめた。

さて師はマハー・モッガラナ長老に、コーシヤ長者と妻の様子を語られ、「あなたはそこへ行ってあなたの神通力を使ってコーシヤ長者を改心させて、彼と彼の妻に饅頭を持たせて、ジェータヴァナに連れていらっしやい」と命じられた。長老はたちどころに空中を飛んで行き、コーシヤ長者の楼閣の七階の窓の外の中に宝石のような美しい姿を現された。その姿を見て、コーシヤ長者の心臓の肉は震え、「このような者たちを恐れてこの場所に来たのに」と、火に塩粒を投げ入れたかのように怒りに歯をカチカチと鳴らした。長老はモッガラナ長老を追い払おうと様々に罵ったが、追い払うことができないので、「この修行者は実にしつこい。饅頭一つを与えて帰らせよう」と、妻に小さい饅頭を作るように言った。妻は少しだけの粉を鍋に入れたが、それは鍋いっぱい大きな饅頭になった。長者は妻を叱り、今度は自分でほんの僅かな粉を取って鍋に入れたがもっと大きな饅頭になった。こうしてますます大きな饅頭ができた。根負けした長者は、「この

うちの饅頭を一つ、この修行者に与えなさい」と言った。すると一つの饅頭を取ろうとしたところ饅頭どうしがくっついて離れなくなり、夫婦二人で饅頭の両端を持って引っ張っても引き離すことができなかった。長者は汗だくになり喉も渇き、「饅頭など、どうでも良い。饅頭の籠ごと、修行者に与えなさい」と言った。

するとモッガッラーナ長老は、コーシヤ長老とその妻に法を説き、心が素直になった彼らに、一緒にジャータヴァナの師に会いに行きましょうと言った。長老は神通力で楼閣の窓のところからジェータヴァナ精舎に通じる階段を作り出し、コーシヤ長老夫妻は饅頭の籠を持って階段を降りるだけでジェータヴァナ精舎に到着した。師は比丘たちと共に饅頭を召し上がられた。饅頭はいくら食べても尽きることがなかったので、大勢の人々が饅頭の恩恵に与ることができたということである。》

要約なので、実際の描写の妙味は十分には伝えられないが、ブッダゴーサの筆致の上手さには驚かされる。もちろん註釈はスリランカ島に紀元前三世紀に仏教が正式に伝えられてから、島で古いシンハラ語で伝えられてきたとされるものだが、それをスリランカ以外の国々でも読めるようにと聖典の言語（パーリ語）で編著することを依頼されたのがブッダゴーサである。だからブッダゴーサのオリジナル描き下ろしというわけではない。

さて、この面白くもブッダの教えであるダンマパダが語られた経緯を説く『真理のことばの物語集』を読んでみようというお方がおられましたら、私が注文を取りまとめて国書刊行会にお願いすれば、全四冊一括購入に限り**二割引きで直接購入者に送っていただける**というありがたいお話があります。是非、この機会に読んでみようというお方は、私のメールアドレス宛に、**お名前・ご住所・電話番号**をお知らせください。私の和訳には、主に学者・学生向けの学術的な註も具わっておりますのでお得です。メールアドレスは jmatsu.maitri1127@gmail.com です。

—— オランダでのこの一年 ——

鈴木伸幸（ライデン大学大学院）

オランダでの留学生活が始まってから気が付けば2年半も経っている。うち2年は新型コロナのパンデミックであっただけにそれほど長い時間が経ったとは実感がないのが恐ろしいことのように感じる。

とはいえ、この一年ほどで私のオランダ生活には大きな変化があった。学校の先生をすることとなったのである。アムステルダム日本語補習授業校という学校があり、そこで中学の社会科の主に歴史分野を3学年分教えることとなった。大学生の時に取得した社会科の教員免許がまさかオランダで生きることになるとは全く予想しなかったが、人生わからないものである。

補習授業校（補習校）というのは（私はこの仕事に関わるようになって初めて知った）、日本の文部科学省が認定する海外子女のための教育機関である。土曜日だけに開講され、日本の認定教科書を使用し日本風の授業スタイルでの教育を行っている。本来は親の海外赴任などで海外に滞在し現地の学校に通う子どもたちが日本に帰国した時に、日本の勉強にも遅れを取らないようにと運営されている学校である。しかし現実には補習校に通う子どもたちの家庭環境は多様化している。例えばハーフのお子さんで日本に帰国する予定はないものの日本語の勉強と日本の教育を体験させるために通わせている家庭の方が今は多いようである。週一回だけの勤務とはいえ、90分の授業3コマ分の授業準備を毎週と、連日の保護者対応などは思った以上の重労働ではあるが、大きなやりがいを感じている。補習校の中学生の能力や問題意識は非常に高い。というのは、オランダの教育は初等教育における自由な教育の面がよく知られているが、実は中学以上になると途端に学習内容が高度になり、日本の大学の一般教養レベルと大して変わらないのではと思うほどの深い内容を勉強している。そのため、中学生には勉強が大変で寝不足になる子が多い。であるので、補習校では中学の授業とはいえ、日本の中学の一般的な教え方では子どもたちは満足せず、おのずと中身のある内容の授業をしなければいけなくなるので授業準備は手を抜けない。

また、オランダに住んでいながら変な言い方ではあるが、補習校ではじめてオランダ人の社会に触れることになった。実は、ライデン大学のシルク先生のプロジェクトにはオランダ人は1人もおらず、オランダ人と触れ合うことがほぼ皆無だったのだ。それが、ハーフの子は普段はオランダ人としてオランダ語を母語として生きているので、彼らを通してオランダ人の生活の実際をはじめて知ることができた。おかげでオランダに対する愛着は深まっている。

さて、トピックを変えてオランダの新型コロナの状況であるが、2月25日以降、ほぼ全てのコロナ規制が撤廃されている。現時点（2022年3月8日）で唯一残っているのが公共交通機関の中でのマスク着用のみである。飲食店は通常体制で営業し、街でマスクをつけている人はほとんどおらず、ほぼ完全にコロナ前のオランダに戻った。私が覚えているのは、店舗内でのマスクの着用義務がなくなった2月25日、スーパーマーケットで誰もマスクをしていないのを見て自分もマスクなしで買い物をしたのだが、それがとても不思議な感覚で夢を見ているようだった。しかしこれが元々だったはずなのだが。もちろん今でも新型コロナにかかる人はいるのだが多くの人はもはや気にすることはなく、コロナ関連が話題に上がることはほとんどなくなった。

それよりも、ウクライナ問題の方が大変である。オランダも少なからざる影響を受けており、ロシアからの天然ガスや石油がストップしているため、光熱費がかつてないほどに高騰している。例えば、今のガソリンはリッターあたり2ユーロ（260円相当）を軽く超えている。一方で、ウクライナ人難民の受け入れや支援物資の募集が盛んに行われている。家に空き部屋があれば部屋単位で難民受け入れの登録ができるそうである。また、ロシアが核攻撃をしたり原子力発電所を攻撃したりする可能性がなくはないので、オランダの

薬局では安定ヨウ素剤を求める人が多く、どここの薬局でも売れきれのようである。政府からの指示がない限り必要はないとのことではあるが。また、日本人にも影響があり、ロシア上空を欧州系のエアラインが飛行できないため欧州系のエアラインの日本便は全てキャンセルされている。

コロナの次は戦争で、なんともやるせない気分である。戦況を見る限り、長期戦は避けられないのかなという気がしているが、1日も早く戦争が終結するように祈るばかりである。



—— アカデミズムの危機 哲学館事件と日本学術会議問題 ——

奥西極（東洋大学大学院博士前期課程）

皆様、はじめまして。本年度より仏教青年会でお世話になっております、奥西極と申します。森原会長より「機関紙の記事を書いてみないか」とお誘いいただき、軽い気持ちで快諾したものの、HP でバックナンバーを確認してみると、過去に寄稿された記事は、どれも学術的に高度なものや、貴重な体験に基づくものばかりで、今更ながら事の重大性を痛感しております。

しかし、同じ専攻の同級生として少しでもお力になりたいと思い、僭越ながら駄文を寄稿させていただきたいと思います。

私事で恐縮ですが、昨年、東洋大学井上円了哲学センターが主催する「井上円了が志したものとは」で東洋大学長賞を受賞しました。このコンクールについては、学部の頃から気になっていたものの、なかなか「書いてみよう」という気持ちになれず、過去 4 回は応募を見送ってきたのですが、今回、ある「きっかけ」があり挑戦してみることにしました。

その「きっかけ」とは、2020 年 9 月に発覚した日本学術会議の任命拒否問題です。日本学術会議は、内閣府の特別機関である国立アカデミーで、科学者の内外に対する代表機関として行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることを目的としています。

日本学術会議の会員の任命は、日本学術会議で、「会員は、第十七条の規定による推薦に基づいて、内閣総理大臣が任命する。」（第 7 条第 2 項）、「日本学術会議は、規則で定めるところにより、優れた研究又は業績がある科学者のうちから会員の候補者を選考し、内閣府令で定めるところにより、内閣総理大臣に推薦するものとする。」（第 17 条）と定められています。1983 年に任命制が導入されて以降、政府は、一貫してこれを「形式的な任命」とであると説明してきました。当時、総理大臣だった中曽根康弘もそのように答弁しています。

しかし、菅義偉前首相は、学術会議側が推薦する 105 人の候補者のうち 6 人の任命を拒否しました。任命を拒否された候補は、いずれも第一部会（人文・社会系）の学者で、安保法制や特定秘密保護法など第二次安倍政権以降の政府の方針に批判的であったという共通点が指摘されていますが、菅前首相は、「総合的、俯瞰的」と繰り返すばかりで、任命拒否の理由を明確に述べることはありませんでした。

これは、日本学術会議の独立性を脅かす大問題ですが、例によって一部の議員やメディアによる「論点のすり替え」や「悪質なデマ」の喧伝によって争点が有耶無耶になり、結局、6 人の候補は任命されないまま、約 1 年半が経過しました。

この問題が発覚した当時、私は、ちょうど大学院への進学が正式に決定した時期で、人文学研究が果たすべき社会的役割（円了で言うところの「向下門」ですね）について思索を巡らせていました。そのような時に、この問題が明るみになったので、「これは書かないといけない」と直観し、翌年の「井上円了が志したものとは」に向けて準備を始めました。

応募した作文は、「独立自活—学問の自由の防波堤であれ」というタイトルで、東洋大学の建学の精神である「独立自活」が哲学館（東洋大学の前身）の教育方針として打ち立てられる契機となった哲学館事件と、日本学術会議の任命拒否問題の類似性を指摘し、その上で、学問の自由を脅かすあらゆる波からアカデミズムを守る防波堤になることは、円了の精神を受け継ぐ東洋大学の使命であると主張しました。

哲学館事件の詳細については、ここでは省略しますが、事件の背景には、来るべき日露戦争に向けて国民に「皇国臣民」としての意識を植え付けようとする政府の意図がありました。天皇を頂点とする帝国主義国家であった当時の日本にとって、中島徳蔵が紹介したミュアヘッドの学説は、「国体を脅かしかねない」思想

だったということです。

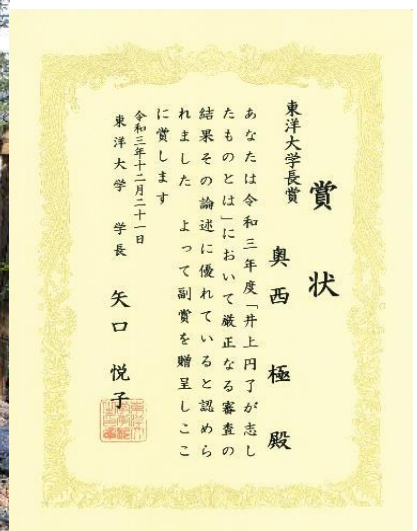
哲学館は、教員免許の無試験検定の資格を剥奪されるなど文部省の弾圧を受けましたが、円了をはじめとする哲学館の教職員は、ただ黙ってそれを受け入れたわけではありません。中島は、読売新聞に「余が哲学館事件を世に問ふ理由」を投稿し、文部省を批判しました。また、円了も、終始、中島を擁護し、後に、一度は哲学館を去った中島を復職させています。中島は、その後、哲学館の学長となり大学昇格に尽力しました。

哲学館事件と日本学術会議の任命拒否問題を単純に結びつけて、「戦前回帰の傾向がある」と批判するのは早計かもしれません。しかし、戦前の日本にアカデミズムを軽視する風潮があったことは明かです。そして、その反省を基に生まれた日本学術会議の独立性が脅かされている現実に対して、我々は、危機感を持つべきでしょう。

今年は、日本の「戦前」と「戦後」の長さが等しくなる特別な年です。アカデミズムに関わる人間として、東洋大学の学生、院生、OBOG として、仏教者として、皆様に平和と共生について、そして、それを実現させるために学問や仏教が果たすべき役割について考えていただきたいと思います、このような文章を執筆しました。

最後に、「井上円了が志したものとは」に応募した作文でも引用した「平和祈念之碑」の碑文を紹介したいと思います。「平和祈念之碑」は、2005 年に校友会によって建立され、大学に寄贈されたものです。白山キャンパスの「雨水の森」にありますので、時間があるときに、ご覧になっていただきたいと思います。碑文は、以下の通りです。

第二次世界大戦において 学徒出陣により学業半ばにして戦場に赴き 戦死した学友をはじめ 過去の
大戦で戦没された校友は多数に上る 我々はこれらの方々に深く哀悼の意をささげるとともに 戦争の
事実を真摯に受け止め アジアの人々との共生を目指し 世界の平和を祈念するため 戦後 60 年に当
たる本年度校友会創立 110 周年記念事業の一つとして この碑を建立する 2005 年 11 月吉日 東洋大
学校友会



—— 親鸞と如信と水戸黄門

— 茨城県歴史館企画展「親鸞を継ぐ—如信をめぐる遺宝—」を観覧して —

板敷真純（東洋大学大学院博士後期課程修了）

如信（1235-1300）とは浄土真宗の宗祖親鸞の孫にあたり、親鸞と非常に所縁の深い人物です。彼は本願寺三代覚如に真宗の法統を伝え、生涯関東の教化に邁進しました。一方徳川光圀（1628-1700）は水戸藩二代目藩主として活躍し、TVドラマ「水戸黄門」のモデルとして広く世間に知られています。しかし光圀が如信に並々ならぬ思いを持ち如信の寺である願入寺の再興に力を入れたことは、ほとんど知られていません。本企画展はそのような如信及び如信が率いた大綱門徒の足跡をたどり、その解明にあたった貴重なものです。本紙では実際に観覧した感想とその考察について述べます。

如信については現在でも不明な部分が多々あります。彼は親鸞と同様に、自身のことについては何も語らない人物でした。少なくとも如信は、嘉禎元年（1235）ごろ京都にて生まれたとされています。嘉元元年前後は親鸞が関東から京都に帰京したころでした。親鸞は孫との初対面にとっても喜んだことでしょう。『最須敬重絵詞』によれば、如信は幼い時から成人にいたるまで常に親鸞の座る場所を離れなかったと言います。このように如信は、幼い頃から親鸞の教えを間近に聞いて育ちました。

如信は若い頃は親鸞の膝元で生活していました。しかしその後、活躍の場を関東に移します。如信がいつごろ関東に下向したのかは分かっていません。しかし親鸞没後の正応三年（1290）には、相模国余綾山中で父の善鸞とともに活動していたことが分かっています。おそらく如信はその後も善鸞とともに関東で活動していたと見られています。また、如信は関東教化に特に力を入れました。如信は特に茨城北部から福島南部で活躍し、多くの弟子がいたことが分かっています。現在でも茨城の願入寺や福島の常瑞寺などが如信の旧跡として残っています。彼が率いた門徒集団を大綱門徒と言います。

『大谷本願寺通紀』によれば、如信は親鸞没後毎年の親鸞の命日には必ず関東から京都へ上って、七日間の法要を勤めたと言います。今でいう報恩講の前身です。常瑞寺では如信が報恩講に向かう際、親鸞の住んだ稲田に立ち寄り、その米を持って上洛したと伝わっています。その後、正安二年（1300）金沢の草庵で入寂したとされています。

二十日以上かかる京都への上洛を毎年欠かさず行っていたというのは、並大抵の気持ちではありません。当時、関東から京都までの道のりはとても険しく命がけの旅でした。如信はどのような思いで毎年の参詣を行っていたのでしょうか。おそらく亡き親鸞を慕う気持ちただ一つであったと考えられます。その気持ちや幼い頃の親鸞との思い出が、如信の身体と心を動かしたのです。このように如信は亡き祖父である親鸞の教えを聞いた篤信の人であり、生涯強い尊敬の念を抱いていました。

本企画展では「如信上人影像」、「如信上人坐像」、如信を描いた「高僧連座像」など、如信や大綱門徒にまつわる多くの宝物が展示されました。また新たに茨城北部の数カ所の寺院には、大綱門徒との交流が窺われることが分かりました。このことは如信が率いた大綱門徒が、先行研究以上に広範囲で活躍していたことを示しています。

本企画展で注目すべきは、徳川光圀の願入寺への関与です。当時光圀は常陸国内の多数の寺院を破却する一方、由緒ある寺院については手厚く保護しました。しかし光圀の如信に対する思いは並々ならぬものでした。『願入寺磐船由緒』には、願入寺が如信の血縁を相承した寺であることを知った光圀が感慨を覚えたとしています。また展示された数点の「徳川光圀書状」には、以下のことが記されています。如信の肖像彫刻を寄進すること、如信の墓所である「金澤御墓」（現法竜寺）は格別のこと、願入寺は如信より続く無類の名刹

であること、などなど。光圀が如信と願入寺について、強い思い入れがあったことが分かります。

如信は親鸞と同様に自身のことを語らない性格でした。しかし如信の静かな強い信仰そのものが、時間と場所を越えて多くの人たちを動かしたのです。それらは報恩講を形作った覚如であり、如信を慕った大網門徒であり、三百年後の徳川光圀であり、今企画展を観覧する私たちなのです。親鸞から如信に受け継がれた言葉なき教えは、今も私たちの身体と心に働きかけているのです。



～～書籍・イベント情報～～

《書籍》

○『中国禅思想史』

伊吹敦/著（禅文化研究所、2021 年、11,000 円）

禅宗は、精神の自由を求めたアウトローたちから始まった。数十年にわたる禅宗研究をふまえ、「社会における禅宗の位置」という新たな視点に立って、中国禅思想史を叙述する。『禅文化』連載をもとに単行本化。

○『天台教学と本覚思想 増訂』

大久保良峻/著（法蔵館、2022 年、13,200 円）

日本の思想・文化の核心として論争的となっている本覚思想を、天台教学との関わりにおいて初めてその起源から究明した名著。証真撰「天台真言二宗同異章」の訳註も収載。2 編の新稿を付した決定版。

○『現代語訳最澄全集』

大竹晋/訳（全 4 巻、国書刊行会、2021 年、全巻揃い 33,660 円）

最澄の著作と伝えられるもののうち、真作と裏づけられる著作を集成。解題等も掲載。

○『玄奘三蔵 新たな玄奘像をもとめて』

佐久間秀範ほか/編（勉誠出版、2021 年、13,200 円）

7 世紀、遠くインドへ旅に赴き、多数の仏典・仏像を持ち帰り、東アジアにおける仏教の基盤を作り上げた仏者・玄奘三蔵。仏教学・文学・美術など多角的な視点から玄奘、および玄奘にまつわる思想・言説・図像を読み解く。

○『仏菩薩の名前からわかる大乘仏典の成立』

田中公明/著（春秋社、2022 年、3,300 円）

大乘仏典の特徴として、冒頭に説法を聴く比丘・菩薩が列挙されることがあげられる。これら仏・菩薩の名前と特徴から、初期大乘經典の在家菩薩の活躍に注目し、大乘仏典の成立と誕生の謎を解明する。

○『チベット仏教の世界』

永沢哲/編著（法蔵館、2021 年、3,850 円）

チベットで大切に保存されてきた仏教の知恵は、20 世紀になって、科学技術が支配する現代世界に直面することになった。チベット仏教の現在の姿を、顕教と密教を縦軸に、思想、修行、社会的展開を横軸に紹介する。

○『真理のこぼれ物語集 ダンマパダ・アッタヴァンナナー』

松村淳子/著（全 4 巻、国書刊行会、2021 年、全巻揃い 28,270 円）

初期仏教最古の詩篇のひとつとされ、古来広く伝承されてきた『ダンマパダ（真理のこぼれ）』。そのパーリ語註釈書に説かれる、これらの詩句にまつわる物語を原典から全訳。

○『仏典とマインドフルネス 負の反応とその対処法』

蓑輪顕量/編（臨川書店、2021 年、1,045 円）

なぜマインドフルネスはストレス軽減につながるのか。仏教学・心理学・脳科学の研究者が協働し、マインドフルネスの源流である仏教の瞑想法（身心の観察）を問い直す。科学と仏教を架橋する入門書。

○『最澄と徳一 仏教史上最大の対決』

師茂樹/著（岩波新書 1899、岩波書店、2021 年、968 円）

三乗説と一乗説のどちらが方便で、どちらが真実の教えか。仏教史上まれにみる規模におよんだ最澄と徳一の批判の応酬。5 年にわたり濃密な対話を続けたのはなぜか。何をどう語りあったのか。論争を解きほぐして描く。

※作成には honto (<https://honto.jp/>) の商品解説を引用・参照しました。

※著者割引価格でお求めいただける場合があります。

《イベント》

○企画展「シルクロードの旅」

日時:1/26(水)～5/15(日) 午前9時30分～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:火曜日(ただし火曜日が祝日の場合は翌平日が休館)

観覧料:一般900円 65歳以上800円 大学生700円 中高校生600円 小学生290円

(東洋大学文学部生は学生証提示で割引あり)

会場:東洋文庫ミュージアム(東京都文京区本駒込2-28-1)

○特別展「空也上人と六波羅蜜寺」

日時:3/1(火)～5/8(日) 午前9時30分～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:月曜日(ただし3/21、28、5/2は開館)

観覧料:一般1,600円 大学生900円 高校生600円 中学生以下無料

会場:東京国立博物館 本館特別5室(東京都台東区上野公園13-9)

○特別展「仏教絵画 浄土信仰の絵画と柳宋宗悦」

日時:3/31(木)～6/12(日) 午前10時～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:月曜日

観覧料:一般1,200円 高大生700円 小中生200円

会場:日本民藝館(東京都目黒区4-3-33)

○伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

日時:4/12(火)～5/22(日) 午前9時00分～午後5時30分まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:月曜日

観覧料:一般1,800円 大学生1,200円 高校生700円 中学生以下無料

会場:京都国立博物館 平成知新館(京都市東山区茶屋町527)

○特別展「大安寺のすべて 一天平のみほとけと祈り」

日時:4/23(土)～6/19(日) 午前9時30分～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで、4/29～5/7は19時まで開館)

休館日:月曜日(ただし5/2は開館)

観覧料:一般1,800円 高大生1,500円 小中生800円

会場:奈良国立博物館 東西新館(奈良市登大路町50番地)

○春期特別展「ブッダのお弟子さん 一教えをつなぐ物語」

日時:4/23(土)～6/19(日) 午前10時～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:月曜日

観覧料:一般1,300円 高大生900円 小中生500円

会場:龍谷ミュージアム(京都市下京区堀川通正面下る 西本願寺前)

～～ 東洋大学仏教青年会・仏教会、今後の予定 ～～

《語学勉強会》

○仏教漢文講読会

講師：佐藤厚 先生

日時/会場：未定

連絡先：sato_inbuds@yahoo.co.jp

○サンスクリット文献講読会

講師：松村淳子 先生

日時：毎週木曜日 13 時～（今後変更の可能性あり）

現在はスカイプで実施（今後変更の可能性あり）

連絡先：Lovec777@gmail.com（担当：梅田愛子）

○チベット文献講読会

講師：現銀谷史明 先生

日時：毎週水曜日 18 時 30 分～（今後変更の可能性あり）

現在は ZOOM で実施（今後変更の可能性あり）

連絡先：busseitibetan2020@gmail.com

※＜語学講読会＞は資料等の準備がありますので、仏青会長または仏教会事務局長まで、あらかじめご連絡下さい。

語学講読会以外の活動については現在未定。

その他の講演会、勉強会等の活動は決まり次第ホームページ（<https://toyo-yimba.net/>）に掲示します。

～～お知らせ～～

東洋大学仏教会会長の渡辺章悟先生を研究責任者としたプロジェクトによって収集され、本会のメンバーも研究分担者として参加し作成したデータが、鶴見大学仏教文化研究所・専任研究員の宮崎展昌先生のご尽力により、『八千頌般若経』の梵蔵対照語彙データベース（Prajñāpāramitā Glossaries）として利用できるようになりました。

詳細につきましては下記サイトよりご確認ください。

<https://prajna.toyo-yimba.net/>

（編集後記：デザインは古いものに戻りましたが、今回も無事に「まいとりい」を発刊することができ、ひとまずは安堵しています。ご多忙中にも関わらず、執筆をお引き受けいただき、ご寄稿下さった皆さまに心より感謝申し上げます。 森原）

※随時会員を受け付けています。入会希望者は下記までご連絡下さい。会員規約・活動内容・受付手続きなどの詳細はホームページ（<https://toyo-yimba.net/>）をご覧ください。また、紹介したい行事や掲載したい記事などがございましたら、下記アドレスまでご一報下さい。編集責任者：森原康暉

東洋大学仏教会

卒業生、一般：年会費 3000 円、特別賛助一口 5000 円

東洋大学仏教会事務局長 岩井昌悟

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学東洋思想文化学科気付

Tel: 03-3945-7393(-7357) E-mail: iwai@toyo.jp

東洋大学仏教青年会

学生：年会費 1000 円

東洋大学仏教青年会会長 森原康暉

E-mail: toyo.yimba@gmail.com

URL: <https://toyo-yimba.net/>